

# 算数科 学習指導案

令和4年2月16日 水曜日 3校時

小学部 4・5・6年 高学年こすもす・すみれグループ（自立活動を主とする教育課程） 計6人

指導者 (MT) 彦田 進 (ST) 芳賀 あかり、土屋 由伸、重松 真友子、荒井 大樹

## 1 題材名（単元）「おおきさくらべ」～ねずみくんのチョコッキ～

### 2 単元（題材）の指導目標

- ・教材の大きさの違いに気づき、その感覚を養うとともに「大きい」「小さい」を比べる技術を身に付けるようにする。 (知識及び技能)
- ・教材の大きさに注目し、大きさにより比較する力を養う。 (思考力・判断力・表現力等)
- ・教材のもつ大きさの要素に体験的、視覚的に気づき、関心をもって活動に取り組む。 (学びに向かう力・人間性等)

### 3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 学びに向かう力・人間性等
単元の 評価規準	① 持ったり、見たりして箱や四角形の大きさの違いに気が付く。 ② 箱を重ねる、タブレットを操作するなどの活動から比べる技術を身に付けようとする。	① ダンボールの箱やタブレットの中の四角形の大きさについて注目する ② 箱や四角形を「大きい」「小さい」の言葉に沿って比較する力を養う。	① ダンボールの箱を持つことで重さや手腕を広げる感覚を感じたり、タブレットの四角形の重なりを見たりして、ものの大きさに対する関心をもつ。
学習活動 に即した 具体的な 評価規準	① 持つ、見る活動を通して大きさの違いに気が付いたことを顔や目の表情の変化で表すことができる。 ② 箱の大きさの違いを理解して箱を重ねたり、かぶせたりする、タブレットを操作することができる。	① 教員の援助を受けながら、大きさの課題に沿って箱や四角形に目を向けたり、それを見ながら活動したりすることができる。 ② 「大きい」「小さい」の言葉の指示に沿って一人で箱や四角形を視線や活動の様子から選んでいることを伝えることができる。	① ダンボールの箱をもって重さや腕を広げる感覚から教材に関心を持ったり、タブレットの四角形の重なりに興味をもって見たりして操作することができる。

### 4 児童の実態

本グループは、小学部4年生から6年生の自立活動を主とする教育課程の児童6名で構成されている。絵本「ねずみくんのチョコッキシリーズ」は、普段の絵本の読み聞かせで、児童らが特に気に入っている絵本である。そのシリーズの中の「ねずみくんのチョコッキ」は、大小の見分けをしやすい動物が順番に出てくる内容であり、大小を比較する学習に適している為、本書を題材として活用した。

### 5 単元設定の理由

高学年こすもす・すみれグループの児童は生活年齢上、様々な場面で「大きい」「小さい」といった言葉に触れてきている。しかし、その言葉の使用場面においては、多分に感覚的、突発的に行われる場合が多く、体系的に学んできた経験は少ないと考えている。そこで、本単元では大小について体系的に学び、大小の概念と言葉について正しく知識と理解が深められるように本単元を設定した。

大きく分けて、二つの物を大きさの違いによって区別することができることに気が付くことをねらいとする児童と、二つの物を相対的な比較により「大きい」「小さい」の用語を用いて正しく区別することをねらい

とする児童がいると考えられる。個別の実態に差があるが、まずは全員が「大きい」を感覚的に確実に捉えられるような設定をした。次に、集団授業であるものの児童の実態に応じて個々のねらいを達成できるような、教材の選定と工夫、授業展開の工夫、言葉かけの配慮などを行った。

## 6 単元の指導計画（全5時間、本時は第5時）

	小単元名	学習内容	評価規準
第1時	「大きい」の言葉を知ろう	・ねずみくんのチョコキの本の通りに出てくる動物たちの箱を、「大きい」の言葉を用いながら順番に比較して、より「大きい」を体感する。	ウ-①
第2・3時	「大きい」を体験しよう	・課題に沿って出てくるねずみくんのチョコキに出てくる動物たち二つの中から、相対的に「大きい」を比較して選ぶ。	ア-① イ-①
第4時 (本時) 第5時	「大きい」「小さい」比べてみよう	・ねずみくんのチョコキに出てくる動物たちを「大きい」「小さい」の言葉にしたがって比較する。	ア-①② イ-②

## 7 指導に当たって

「算数・数学科」学習指導要領との関連

○領域（ <b>数と計算</b> ・図形・ <b>測定</b> ・変化と関係・データの活用）
○段階（ <b>1段階</b> 2段階 3段階）
○学習内容
・ダンボール箱の動物比べ・・・入れ子的に作成してあるダンボール箱を重ねたり、かぶせたりすることで大きさの違いや「大きい」「小さい」の言葉について知る活動。
・タブレット・・・ダンボールと同じ課題をタブレット中に示し、四角形の重なりから大きさの違いや「大きい」「小さい」の言葉について、個別的に理解を促したり、確認したりする活動。

## 8 本時について

### (1) 目標

・提示された動物の描かれた箱や四角形を見たり触れたりすることで大きさの違いに気付き、箱を重ねたりタブレットで「大きい」「小さい」を比べる方法を身に付けようとする。

### (2) 展開

過程	活動内容	指導上の留意点	評価
導入 5分	(1) はじめのあいさつ (2) こくご・さんすう、はじまりのうた 「いっぽんでもにんじん」		

<p>展開 35分</p>	<p>(3) 「ねずみくんのチョコッキ」読み聞かせ</p> <p>(4) 動物大きさ比べ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の様子の確認</li> <li>・ 大きさ比べをしよう</li> </ul> <p>全体：一人ずつ順番に前に出て、質問に沿って、ダンボールでできた箱を重ねる動物比べを行う。</p> <p>他児童：タブレット端末で前の児童と同じ質問に取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回までの様子から課題と必要な支援を確認する。</li> </ul> <p>(全体) 個人の課題に沿って、大きく差がある動物同士、差が小さいものを使った活動をする。</p> <p>児童 BC：差が小さいものを使う。</p> <p>児童 F：差が中間ぐらいのものを使う。</p> <p>児童 ADE：差が大きいものを使い、「大きい」に気が付く活動をする。</p> <p>(個別) 前に出ている児童と同じ課題にタブレット端末で取り組む。</p> <p>児童 BC：できるだけ少ない支援にして自分で課題に沿って選ぶ活動をする</p> <p>児童 F：「大きい」「小さい」の言葉を丁寧に伝え自分で選んで活動する。</p> <p>児童 ADE：特に「大きい」に注目し興味をもち活動できるよう支援する。</p>	<p>ア-② (行動観察)</p> <p>ア-② (行動観察)</p> <p>ア-① (行動観察)</p> <p>ア-② (行動観察)</p> <p>ア-② (行動観察)</p> <p>ア-① (行動観察)</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>⑤ まとめ 今日の様子の確認</p> <p>⑥ 終わりのあいさつ</p>		

(3) 配置図

